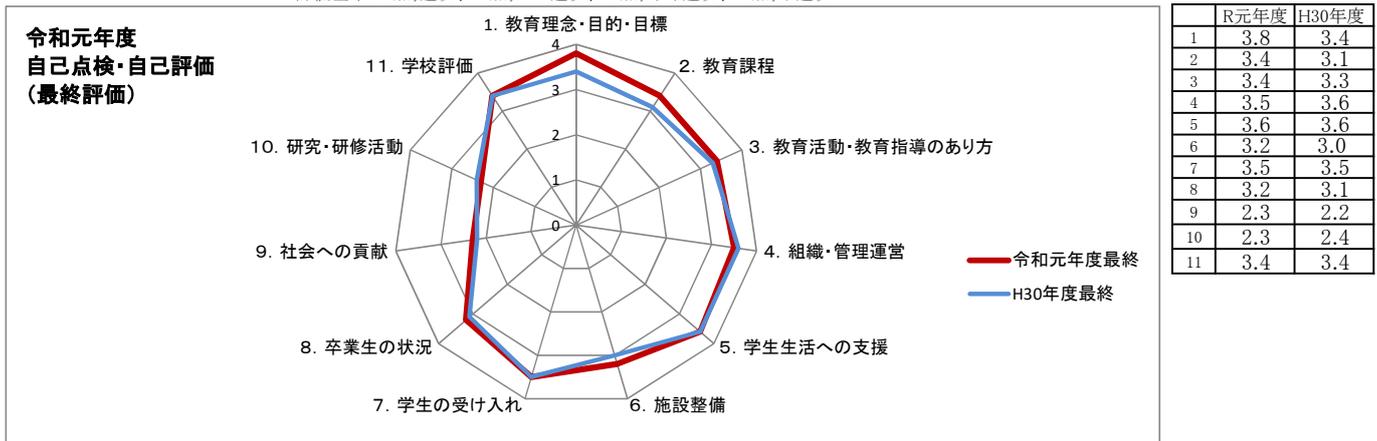


令和元年度 自己点検・自己評価および外部評価結果

富山病院附属看護学校

○ 大項目 評価点平均

評価基準：4点;適切、3点;ほぼ適切、2点;やや適切、1点;不適切



○ 大項目における令和元年度の概要 と 課題

1. 教育理念・目的・目標 (3.8点)

機構の看護学校としての教育理念・目的・目標については、明記されているが、地域の特性等を活かした教育理念・目的を示す内容としては弱い。しかし、一般的な看護師養成所に求められることは示されていると考える。

2. 教育課程 (3.4点)

毎年、シラバスの見直し、各教科の関連、進度の見直しなどを行い、教育課程の整合性を確認している。学生の状況や実習環境、講師による制約や課題はあるが、その都度課題を認識し、可能な限り改善できるようにしている。

3. 教育活動・教育指導のあり方 (3.4点)

実習指導評価の継続・教材の購入等は学生の学習環境を整える。老朽化もあり整備は必要であるが、プロジェクター 学生パソコンの新規購入、タブレットパソコンの導入など一部改善はされている。また、多機能モデル人形の買い替えも効果的な授業・演習に使用が期待できる。

講義においては昨年度より各学年にカリキュラム担当を置いており、外部講師の日程調整や学生への時間割掲示、変更調整が迅速に行われている。

しかし、教員が年度途中で減員したことによる担当変更も含め、教員1人当たりの授業時間・実習時間に差異もあり検討を要する。

授業評価は、各教員でそれぞれ実施しているが、実習の指導過程評価については、学生の意見や記載件数が少なく、指導者からも実習の形態によっては記載しにくいとの意見があり、方法や書式の検討が必要か。

カリキュラム評価では、昨年度、基礎看護学から領域別看護学に一貫性をもたせ、思考を整理しやすいようにその関連性や重複の有無、統一性といった視点で検討した。また、教員同士が他の科目でどのような事例検討を実施するのか、自己の担当科目の重要な点はどこかを明確にし、授業ができるように検討できた。今年度の実施を経て、評価していきたい。

4. 組織・管理運営 (3.5点)

学校職員について、年度途中で異動・退職者があつたため、指定規則を現在要件の最低にラインとなっている。

次年度をもって新入生の募集を停止することが決定し、閉校の準備を教育業務と並行して行う必要があり、より業務を整理して計画的に実施していくことが必要な状況にある。今後、閉校準備委員会を設置し、業務だけでなく予算とりも必要になる。

昨年度より職務分掌が明文化され、各学年担当の業務範疇が明確になった。人員の制約がある中、各人が課された業務をスムーズに行えるよう、さらにより一層の連携・協力が必要であり、互いを尊重し合った関係性の構築が大きな課題となっている。

5. 学校生活への支援 (3.6点)

カウンセリング室、自治会の活動のための部屋の確保などは毎年課題になっているが、構造上、予算の制約上、運用でカバーしている。

課外活動に関しては、内容の特性上、学生の興味関心のある内容の特定の参加者になっているため、今後、自治会活動として企画運営するなどできれば、課外活動参加者が増えるのではないかと。

6. 施設整備 (3.2点)

設立当初および再整備時からの状況変化により、施設設備の本来の目的と異なる状況も発生している。現実問題として、ハード面を是正することは困難なため、運用上の工夫を持って対応している状況にある。今後も時間や運用方法について調整をはかり、協力体制を継続することによって、このことによる弊害が発生しないように努めていく必要がある。学生の現状を踏まえ、学生が安全な環境下で自主的に効果的に学習ができるように、設備の管理および使用方法のルールの見直しを継続して図る必要がある。

7. 学生の受け入れ (3.5点)

受験者が増加し、質の高い学生が入学すること、特に、閉校が公表され最後の学生募集となり、高校訪問においても「3年間での卒業」を念頭においた質の担保も意識した説明を行った。高校訪問は、当初早期の実施を考えていたが、学習計画、教員の人員減少に伴い、時間の調整がつかず、7月から8月と遅れた事実は否めない。しかし、オープンキャンパスでは、昨年度の参加者数と同等であるにもかかわらず、9割が高校3年生と昨年度までの傾向とは大きく変化している。次年度入学のための試験全体の応募者は、過去5年間で最も多く30名ほど多く、現在入学希望者は24名となっている。県内の看護系大学の今年度の入学状況から、受験生の動向に変化がみられていることの現れとみている。

8. 卒業生の状況 (3.2点)

就業継続に向けて、専門職業人としての倫理面の指導を日常生活内からも行い、本人の適正に合った職場選択や職場適応力を向上させるための指導を実施している。就活対策として、願書の書き方や小論文の書き方、面接対策など、業者の協力を入れたことで全国的な動きがイメージでき、自己を振り返れる場となった。しかし、就職試験のための小論文、願書指導では、文章能力、言語での表現力の乏しさが顕著に現れ、1年次より文章力、読解力などの強化の必要性を感じ、教科外の活動を通して学習支援をしているが、教員での支援にも限界を感じており、様々な教育ツールの活用も検討することが今年度の課題であったが、中途半端な検討となってしまう、次年度の課題となった。

9. 社会への貢献 (2.3点)

地域のニーズを把握する機会を得るさらなる努力が必要である。母体病院との連携はとれているが、母体病院以外の連携は乏しい状況にある。

臨地実習施設の縮小の現状もあるため、課題としての意義は大きい。ボランティアの参加については、学生の主体的なボランティア活動の参加につながっていくことを期待したい。

10. 研究・研修活動 (2.3点)

研修や費用の保障はあるが、十分な研究活動、発表がされていない。
また対外的な講師の役割を果たせていないため活動の可能性を探る必要もある。

11. 学校評価 (3.4点)

ソフト面の改善は徐々に行っているが、勤務移動等による役割変更があった際に活用すべく引き継ぎ書やマニュアルを残していく風土を醸成していく必要がある。ハード面では、学生の要望を活かして、学生寮の改善などはされているが、学校設備、備品等の整備が十分でないため改善が必要である。